

### 第3回名張市立病院改革検討委員会 会議録

日時：平成28年3月30日（水）

午後1：30～3：00

場所：名張市介護老人保健施設「ゆりの里」

1階 多目的ホール

#### 第1. 出席者について

##### 1. 出席委員 8名（委員総数9名）

No.	職名	区分	所属名	役職	氏名
1	1号委員 (委員長)	学識経験者	大阪商業大学 関西学院大学	非常勤 講師	岩崎 利彦
2	1号委員	学識経験者	関西大学経済学部	教授	佐藤 雅代
3	2号委員 (副委員長)	地域医療 関係者	名賀医師会	副会長	東 明彦
4	3号委員	市民代表	青蓮寺・百合が丘 地域づくり協議会	会長	山田 睦郎
5	3号委員	市民代表	伊賀の地域医療を 守る会	代表	高木 裕美子
6	5号委員	医療行政 関係者	三重県伊賀保健所	所長	土屋 英俊
7	6号委員	名張市職員	名張市企画財政部	部長	森岡 千枝
8	6号委員	名張市職員	名張市健康福祉部	部長	菅生 治郎

##### 2. 欠席委員 1名

No.	職名	区分	所属名	役職	氏名
1	4号委員	福祉関係者	名張市社会福祉 協議会	会長	山本 順仁

##### 3. 事務局（名張市側） 9名

伊藤院長、小野副院長兼看護部長、竹内副院長、今井事務局長、  
村上経営総務室長、井上医事室長、辻川医事室副室長、  
金森経営総務室主査、吉田経営総務室員

## 第2. 会議録

### 1. 議事

#### (1) 第2次名張市立病院改革プラン（素案）について 事務局より説明

##### <質疑応答>

- 委員 来年で開院20周年を迎えるが、記念式典等は予定しているか。
- 事務局 開院15周年では記念式典を行った。来年の開院20周年に向けて、これから計画を練っていく。
- 委員 開院20周年に際して、寄附金を募るといった予定はあるか。
- 事務局 名張市でもふるさと納税制度を取り入れており、医療や福祉など分野を指定して寄附を行うことができるので、ふるさと納税制度と開院20周年を関連させてPRしていきたいと考えている。
- 委員 前回の意見で、一般会計繰出金の基準をある程度明確に定めるということだったが、それを12ページから14ページに総務省の基準ごとにまとめたのか。
- 事務局 繰出基準は、総務省の通知を基に当院の事情を踏まえて検討をした中で、現在決めている部分を示している。
- 委員 他の自治体では収入と支出から病院と一般会計それぞれの負担割合が明らかになるような基準を作っている。  
財政当局と病院事務局で、繰出基準が明確になるように検討してはどうか。現在は明確になってない部分があるので、検討の上、修正後のものを記載すべきではないか。
- 委員 繰出基準の表「医師確保に要する経費」として、「医師確保手当相当分」が挙げられているが、これはどの程度支出することを考えているのか。

○事務局 医師確保手当は、医師不足が深刻だった時期に、手当の上乗せ措置として導入した。

周辺の医師不足の自治体病院でも同様の手当を支給しているが、この形が良いかは議論を深めていく必要がある。

現状、手当は定額で支給しているが、業績に基づいた実績手当の導入も含めて手当の見直しを検討しており、改革プランの中にも盛り込むことができると考えている。

○委員 4ページ、三重県の医療資源の動向の表を見ると、名張市は一般病床数・医師数が県内で最も少なく、伊賀サブ保健医療圏でも地域内で差があり、名張市だけでも非常に少ないので、その点をもう少し強調して記載しても良いのではないかと。

○事務局 名張市は人口の割に病床数が少なく、特に回復期が少ない。そのため、病床を増やすことができると考えているが、増床については国と県が権限を持っているため、我々だけではどうすることもできない。

ただ、県は今回の地域医療構想調整会議において、中勢伊賀保健医療圏のうち、伊賀サブ保健医療圏を独立させて考えている。また、次期の保健医療計画を策定する際には、今回の区域をベースにしていく可能性があるということを知っている。

地域の特殊性を考慮して頂き、伊賀地域の約17万人の医療圏を独立して考えて頂けるのであれば、急性期、回復期、慢性期いずれも不足するという試算になるのではないかと。

○委員 繰入金については他の自治体の同規模の病院に比べてかなり多いと感じる。

今回、不良債務が解消したことにより、次年度以降は経営が改善していくのではないかと期待しているが、やはり急激に良くなるとは思えない。起債の償還金も減少していくものの、やはり10億円以上の繰入が必要である。

○事務局 平成27年度に約16億5000万の繰入をして頂いたのは、今年度が起債の償還額が一番大きかったからであり、来年度以降は額が少しずつ減少していくので、経営努力によりできる限り一般会計に負担をかけないようにしたい。

- 委員 30ページ、「(5) 施設の維持・設備の更新」に関して、医療機器については基金を財源として更新して頂いたところだが、今後、高額の医療機器の更新計画や、その財源についての考えがあればお聞かせ頂きたい。
- 事務局 開院当時から使用している透析装置などの設備や施設関係についても順次計画的に更新していきたいと考えてはいるが、今のところ具体的な計画は定めていない。
- 委員 市民は新しい機器が良いと思うのではないか。
- 事務局 市民だけではなく、医師も新しく高品質な機器が良いと考えている。支出削減のために機器の更新を行わないと、今度は医師が来なくなるので、優先順位をつけながら更新していく必要がある。
- 委員 37ページ、「経営形態の見直しの検討・協議体制は、名張市立病院改革院内検討委員会、名張市立病院経営会議、名張市立病院改革検討委員会とします」とあり、検討・協議のスケジュールで、「再編・ネットワーク化」の検討とともに、平成29年度を目途に検討・協議を進め、経営形態を見直す場合は平成32年度までの実現を目指します」とある。改革プラン自体は平成28年9月議会で最終案を出されるとのことだが、改革プランとは別に経営形態の見直しを行うということか。
- 事務局 経営形態の見直しについては、再編・ネットワーク化も併せて検討する必要がある。地域医療構想の策定が約1年間遅れていることもあり、この部分については再度検討したいと考えている。  
いずれにしても、この改革プランだけで決められる案件ではないので、別途、市民や市議会との協議をさせて頂きながら検討していきたい。
- 委員 26ページ、「救急部門の拡充・増設や、救急当番日を増やす等、救急医療の充実を図ります」と断言されているが、現状の病床規模や資金で、いつ実現する目途なのか。救急は赤字部門であり、救急当番日を増やすとしたら、ますます空けておかなければならない病床が増え、医師の負担が増えて、入院患者が増えるとして

も相当経営を圧迫するのではないか。

次に、25ページの「産科の開設」について、「段階を踏んで取組を進めます」と記載されているが、いつぐらいの開設を想定されているのか。また、産科病床の場所の確保や、緊急性の高い患者の受入のため病床を空けておく必要があるが、どのように調整するのか。

○事務局 救急医療を担うことは、公立病院である当院の使命でもあり、救急当番日を増やす必要がある。救急当番日を増やすほど赤字が増えるというのは事実であるが、市民に税金を負担して頂いているので、やはり市民に納得して頂けるような運営をしていきたいと考えている。

産科についても、市民からの要望が多い。実施するのであれば現在の200床では困難であるが、産科の病床については特別枠があると聞いているので、県と相談しながら増床できないかと思っている。

○委員 産科については、いつまでに開設するといった具体的な話を記載すべきではないか。

○事務局 産科は、どの市町村でも人口が減っていく中で、子どもを安心して産んで育てることができる市でないと、人口は増えないだろうということで、市の施策として力を入れている。

まずは産科医が確保できないと産科開設の目途が立たない。医師確保に向け努力しているが、現時点で明確なスケジュールを記載するのは難しい。

○委員 27ページ「DPCによる医療の標準化・質の向上」について、「機能評価係数の向上に努め、併せて全ての職種に対してDPCに関する研修を行うことで制度への理解を進め、入院収益の増加に努めます」とあるが、DPCで入院収益の増加につながるのだろうか。

○事務局 感染防止対策加算を2から1にすることによってDPC機能評価係数Ⅱが上がるように、各加算を積極的にとれば次年度の係数に反映されるので、機能評価係数のアップに積極的に取り組んで

いくことを考えている。

- 委員 30ページ、「その他職場環境の整備」について、現在も取り組まれていることをあえて記載する必要はあるのか。
- 事務局 職員の増員により、当直室、更衣室、休憩室等の福利施設が若干足りていないという状況であるため記載しているが、あえて記載すべきかは再度検討させて頂く。

## 2. その他

- ・次回開催日について

平成28年4月26日（火） 午後1時30分～ に決定した。

(以上)